

6. 2. 対象物の検討

ポイント

1. リユース食器による販売物は多種多様
2. 競合商品の扱いを考慮

1. リユース食器による販売物は多種多様



▽リユースカップの場合

リユースカップによる販売例としては、ソフトドリンク（コーヒー、紅茶、お茶類、炭酸飲料、ジュース、ミネラルウォーター等）やビールが挙げられます。導入以前はいずれも紙カップで提供されていたものです。なお、熱いものを入れることも可能です。ただし食器自体も高温になるため、持ち歩きに注意が必要となります。

▽リユース食器の場合

カレーや豚汁の販売が考えられますが、カレーなど油分が多い場合は下洗いの工程が必要となります。

2. 競合商品の扱いを考慮



▽リユース食器対象以外に利用者が流れることもある

リユースカップの大きさや形状によっては利用が敬遠されるケースもあります。ペットボトルを持ち込む人が増えたり、子どもが飲みやすい紙パック入りのジュースに流れたりしたケースがありました。

6. 3. 自治体との連携

ポイント

1. 自治体のごみ削減事業とのタイアップ

1. 自治体のごみ削減事業とのタイアップ



▽自治体もごみの減量方法を模索している

大規模イベントの場合は地元自治体や都道府県とのタイアップが考えられます。日産スタジアム（横浜）のリユースカップには、横浜市のごみ減量施策のロゴが入っています。小規模イベントの場合でも、リユース食器を利用するイベントに補助制度を設けている自治体もあります（例えば山梨県増穂町）。ごみ減量が自治体の重要な政策課題の一つであるため、市民や企業の側から行政に働きかけると有形・無形の支援が得られる可能性があります。

6. 4. 費用負担について

ポイント

1. 経費の大まかなみつもりを立てる
2. 広告費を企業から得よう
3. 企業をサポーターにしよう

1. 経費の大まかなみつもりを立てる



▽カップ導入のためのコスト

カップ導入には、固定費としてのカップや収納コンテナの調達費用と、変動費としてのカップ回収業務費用（回収、運搬、デポジット管理等に関する人件費）、洗浄費用、管理費用（釣銭両替費等）がかかります。

自治会などの小さなイベント会場で洗浄する場合は、食器洗浄機を会場まで運搬する費用やプロパンガス代、助言者の派遣を依頼する場合は人件費などが必要です。

2. 広告費を企業から得よう



▽広告媒体としてのリユース食器

リユースシステムの運営経費の大半が、リユースカップに企業名とロゴを印刷した協賛企業からの広告費でまかなわれた例があります。リユースカップは広告の媒体効果を持つため、一層の普及が進めば、広告費が運営経費確保の大きな柱となる可能性があります。

（広告費に関する事例）

- ・ 大分・ビックアイではカップの側面に計7社の広告を印刷した（4色刷）。
- ・ 飲料メーカーのクレジットが入ると、他社の飲料を使用できずカップの汎用性が低くなる可能性がある。
- ・ 複数企業が協賛に付き、それぞれのカラーを薄めつつ少額ずつでサポートする方法もあるが、広告媒体としての価値は弱まる可能性がある。
- ・ 協賛企業のロゴをシュリンク加工（ペットボトルのラベルのようなもの）にする場合、イベントごとに協賛企業を募ることが可能とはなる。ただしカップの形状変更が必要となったり、衛生面で課題が残る。
- ・ シールを利用した場合はシールの貼り剥がしに煩雑な工程が発生する。

3. 企業をサポートにしよう



▽エコロジースポンサーという考え方

新潟のスタジアムの事例では、大手リユース品販売会社が「エコロジースポンサー」となり、洗浄料金を補助しています。単なる協賛企業という形ではなく、参加企業にステータスを付与するような仕組みがあるとよいでしょう。

6. 5. 人員計画について

ポイント

1. 回収に必要な人数を見積もる
2. 食器洗浄関係に必要な人数を見積もる

1. 回収に必要な人数を見積もる



▽スムーズな回収のための工夫

イベントの規模や返却時の形態（短時間に返却が殺到するか）により回収所の必要人数が異なります。イベント別には次の先例があります。

- ・（サッカー場（大分）・デポジットあり）各回収所に 1 名配置。それとは別に全体統括者 1 名と巡回監督員 1 名を配置した。
- ・（サッカー場（横浜）・デポジットなし）回収所関係には全体統括者 2 名、巡回監督員 2 名、返却の多い回収所には各回収所に回収員 1 名を配置した。比較的利用が少ない回収所は無人で対応。カップの返却が最も集中する時間帯は、登録ボランティアのうち毎試合 130～140 名ほどが回収をサポートする。
- ・（大規模音楽イベント）リユースカップの担当のボランティアが場内を定期的に巡回して回収。分別と回収をボランティアが呼びかけた。
- ・（遊園地）返却所のデポジットの返却と釣銭の管理については専任のアルバイト（原則 1 人）が担った。
- ・（中小規模イベント）回収食器対応係として 1 回収所に 1 から 3 名程度必要。

なお、デポジット金の管理がボランティアスタッフの責任範囲を超えると考える場合、運営スタッフを増員しなければなりません。それを見越しての運営体制の整備や人件費等の確保が課題となります。

2. 食器洗浄関係に必要な人数を見積もる



▽洗浄部隊はリユースの要

食器洗浄機を利用し現地で洗浄を行う場合は洗浄係が 1～5 人必要です。会場内の食器運搬にも 1～3 人を要します。食器洗浄機を設置できないイベントでは手洗いで作業しますが、その際には洗浄係に 5～8 人配置するとよいでしょう。カレーをメニューに加える場合は下洗いが必要なため、洗浄係としてさらに 1～2 名を追加します。